

事業概要票

事例NO. 36（平成19年度発表）

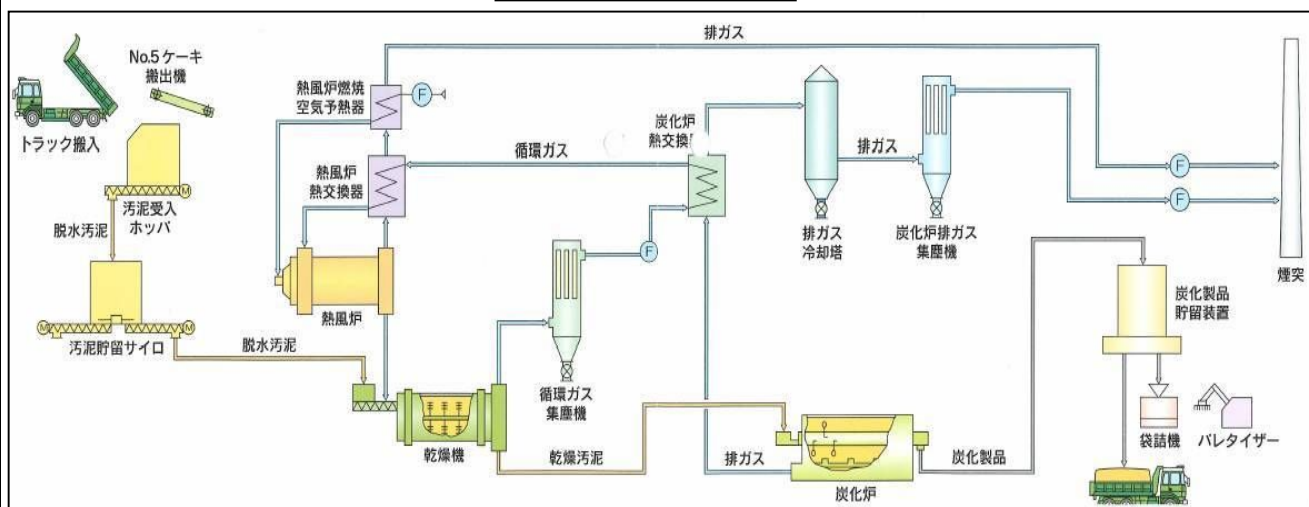
事例キーワード

廃棄物抑制・リサイクル

事業名		秋田湾・雄物川流域下水道事業（大曲処理センター汚泥炭化施設）
事業担当機関		建設交通部 南部流域下水道事務所
事業期間		平成16年度～平成18年度
実施場所		大仙市花館字上大戸地内
事業概要	全体事業費	2,712百万円
	工事概要	汚泥炭化施設整備工事（25t/日処理能力） ・汚泥貯留サイロ 1基、・乾燥機 1基 ・炭化炉 1基、炭化製品貯留装置 1基
	事業の目的	県南部の汚泥処理については、県臨海処理センター（秋田市）へ搬出し、焼却後にその全量が産廃処分されており、下水汚泥の有効利用が喫緊の課題となっていた。 当事業は、下水汚泥の有効利用を図ることにより、循環型社会の形成に寄与することを目的としている。
環境配慮の内容	1. 下水汚泥のリサイクル率を向上させるため、有効利用を前提とした処理システムを採用した。 2. 炭化する過程で発生する熱エネルギーを施設内で有効活用を図った。 3. 焼却に比べ、一酸化二窒素の排出量の削減できる炭化技術を採用した。	
施工後の状況	1. 土壌改良材（普通肥料登録）として、有効利用が図られている。 2. 炭化炉が効率的に稼働しており、重油等の燃料使用量(L/t)が設計使用量より28%削減されている。 （参考）年間約450t（CO2換算）の温室効果ガスの削減が図られている。 （通常の焼却施設と比較した理論値）	

廃棄物抑制・リサイクル

施設概要図



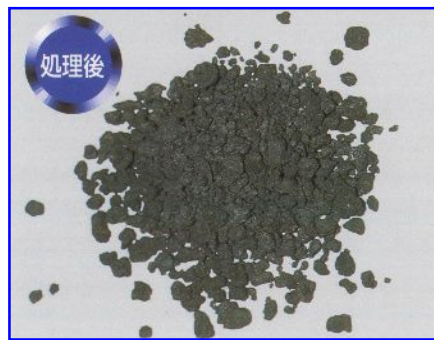
炭化施設の状況



炭化施設外観



炭化炉
（外熱式ロータリー）



炭化製品
（含水率30%程度）